

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、和合圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和3年11月29日（月）9時30分から11時15分まで
参加者	委員12名、関係機関12名
場所	和合せいれいの里 研修センター
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 住吉・和合、富塚地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議事項</p> <p>1) 家事支援、ゴミ出し支援における実態について ゲストスピーカー：訪問介護事業所「聖隷ヘルパーセンター」 訪問介護の説明や家事支援の困難について、紹介をしていただいた。 富塚地区社会福祉協議会 家事支援部長 地区社協の家事支援活動について、紹介をしていただいた。 住吉・和合地区社会福祉協議会 会長 地区社協の家事支援活動について、紹介をしていただいた。</p> <p>2) 既存データ、調査等から ①令和2年度の振り返り 市社協より、パワーポイント資料を用いて昨年度の協議体会議の振り返りを行った。 ②地域の現状について（人口、高齢化の推移） 市社協より、パワーポイント資料を用いて圏域内の人口や高齢化の紹介を行った。 ③ゴミ出し支援を導入している方についてのアンケート 地域包括支援センター和合より、地区社協や介護事業所へ行ったゴミ出し支援についてのアンケートの報告を行った。</p> <p>3) グループワーク 「在宅の支援を必要な方への取り組みについて、支援者のすそのを広げ担い手を確保する為に」 ○富塚地区 ・事業所でサービスや支援を受けている人も、地区社協の家事支援を利用している。 ・家事支援のゴミ出しとして、可燃ゴミ（生活ゴミ、枯れ葉など）が多い。利用頻度は週に1回・2回、月に1回など様々である。 ・ゴミ出し支援が必要な理由として、集積所まで持って行くことが大変だから。 ・自治会へ、ゴミ出しについての相談はない。</p>

・ゴミ出しは料金設定が難しい。安くして利用頻度が上がると、支援員が不足する。
また、支援員に対しても、ゴミ出しの為だけの移動、体力的に重いものを運ぶのが大変といったことがある。

- ・一番は近所の人、困っている人のゴミ出しが出来るようになることが望ましい。
- ・ゴミ出しの支援を定期的に行う事は、見守り支援につながる。
- ・通学途中の小・中学生から協力を得られないか。例えば、通学路の途中に置いて行ってもらったり、マンションの上の階の子どもが下の階の人のゴミを捨てて行ったりするなど。

→問題点

①景品等に図書カードを用いると聞いたことがあるが、そのような場合子どもを物で釣るのはどうなのか。

②衛生上・安心上の問題

③学校や保護者の理解を得られるか

④そもそも子どもは自分の家のゴミ捨てをしているのか

○住吉・和合地区

・核家族化の進展でコミュニティのつながりが希薄となっている、以前は近所の人ゴミも持って行ってきていた。これがもっとあれば良い

・家事支援活動がまだまだ地域住民に浸透していない。地区社協と自治会が連携して家事支援をPRする方法を検討する必要がある。

・交友会では、周りの世話にならないように日々の活動をしている。

・困ったことがある人は、困ったままになっているのではないか。困ったこと（ニーズ）を集約する方法を検討する。

・地元の人はある程度困っている人が分かっていることも多い、つなげる方策を考えると良いと思われる。

・地域住民のつながりづくりも同時に考える。

・介護事業所、ケアマネなどとの連携をしていきたい。地域ニーズが見えてこない為、どんなニーズがあるか聞いてみたい。

・ゴミ出しの場所が比較的近いかもしれない。

方向性⇒まだまだ家事支援が地域住民に浸透していない、担い手の確保はもっと浸透してから。

地域の機関が連携・協働し家事支援を地域の方に知っていただく方策を検討。

	<p>4. 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回日程：令和4年2月14日（月）9：30～ 会場：和合せいれいの里 研修センター <p>5. その他</p> <p>特になし</p> <p>6. 閉会 住吉・和合、富塚地区生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>各地区でそれぞれの課題について話し合うことが出来た。圏域内の事業所との連携を踏まえて、生活支援体制づくりを進めていきたい。</p>